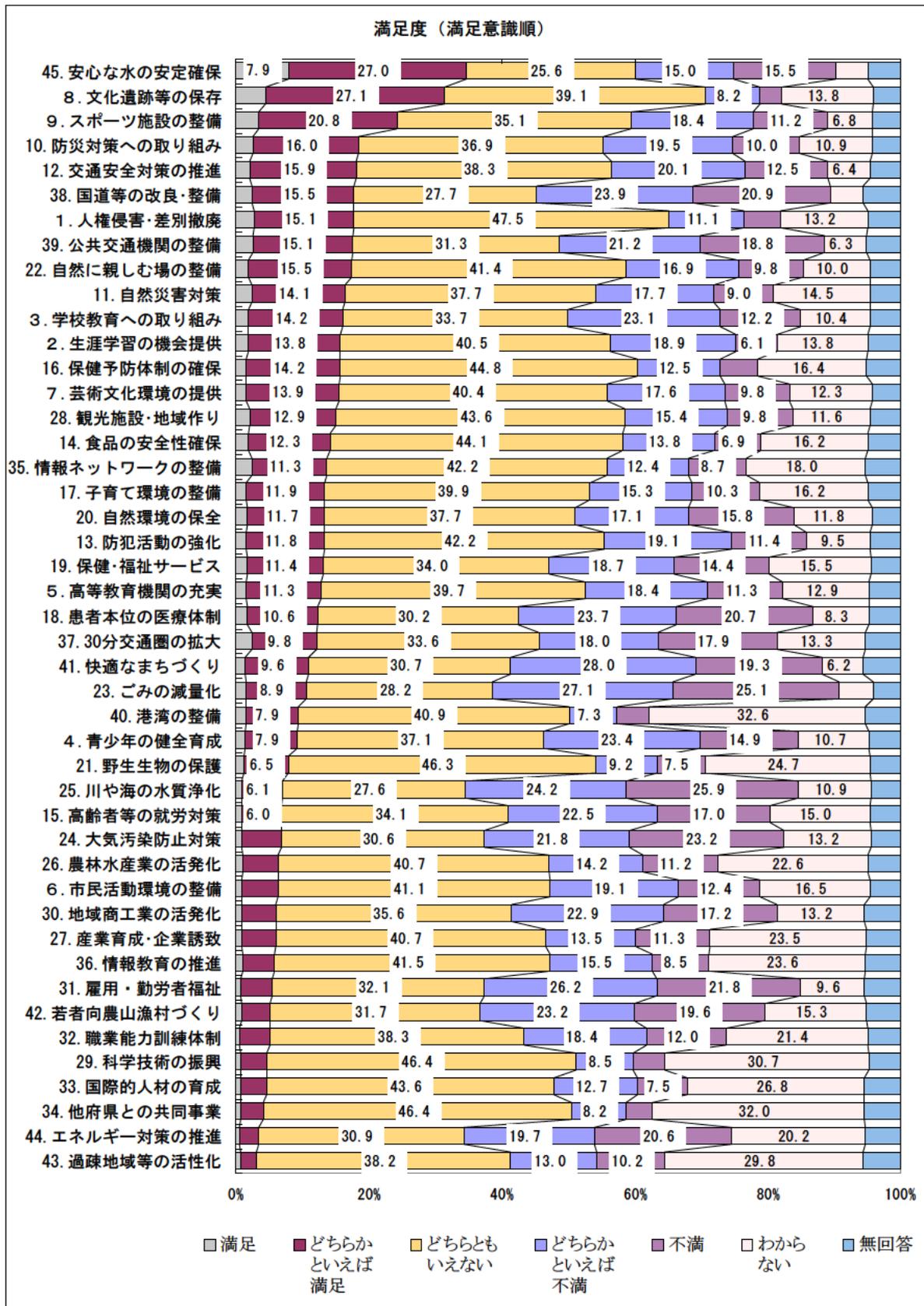


(2) 満足度に関する結果の概要

(満足意識は「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計)



全体の特徴

各質問項目とも「どちらともいえない」が、ほぼ 30%～50%と多くを占めているが、満足意識（「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計）と不満意識（「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計）を比べると、ほとんどの項目で不満意識の方が高くなっている。

満足意識は、「安心な水の安定確保」が 34.9%で最も高く、次いで高いのは「文化遺跡等の保存」（31.5%）、「スポーツ施設の整備」（24.3%）であるが、これら 3 項目以外は高いものでも 10%台にすぎない。

不満意識は、「ごみの減量化」が 52.2%で最も高く、次いで「川や海の水質浄化」（50.1%）、「雇用・勤労者福祉の向上」（48.0%）、「快適なまちづくり」（47.3%）と続いており、上位 11 項目までが 40%以上の不満意識となっている。

属性別の特徴

個別項目ごとの満足度に関する属性別（年代別、生活創造圏別）回答結果については、28 ページ以降に掲載しているが、特徴的なことをあげると以下のとおりである。

年代別にみると、ほとんどの項目で年代が高くなるほど満足意識が高くなり、逆に不満意識は低くなっている。年代による不満意識の差が特に大きいものは次の項目である。

<年代間の不満意識の差が特に大きい項目>

項目	県全体	年代別の最大値	年代別の最小値
3. 学校教育への取り組み	35.3	48.4（40 歳代）	19.4（70 歳以上）
5. 高等教育機関の充実	29.7	43.5（40 歳代）	15.5（70 歳以上）
9. スポーツ施設の整備	29.6	46.2（20 歳代）	11.7（70 歳以上）
17. 子育て環境の整備	25.6	45.6（30 歳代）	10.7（70 歳以上）
18. 患者本位の医療体制	44.4	52.7（40 歳代）	24.1（70 歳以上）

数値は不満意識（「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計）

生活創造圏別にみると、満足意識については総じて圏域間の差が少ないが、不満意識については、圏域間の差が大きいものがみられる。圏域間の不満意識の差が特に大きいものは次の項目である。

<圏域間の不満意識の差が特に大きい項目>

項目	県全体	圏域別の最大値	圏域別の最小値
26. 農林水産業の活性化	25.4	45.8（尾鷲）	18.8（桑名・員弁）
27. 産業育成・企業誘致	24.8	41.8（熊野）	18.5（四日市）
37. 30分交通圏の拡大	35.9	63.6（熊野）	31.7（桑名・員弁、四日市）
42. 農山漁村づくり	42.8	61.0（尾鷲）	31.2（四日市）
43. 過疎地域等の活性化	23.2	49.3（熊野）	15.0（四日市）

数値は不満意識（「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計）